

3級 【パターン】傾向と対策

1. 作図・パターン展開

<身頃>

- ・原型はガイドブックにも記載されているように、課題に合わせて調整された原型はたとえウエストラインから上のみであっても使用不可である。
- ・課題のAラインのシルエットは、ほぼストレート原型に近い解答でも正解の範囲内であるが、前身頃はバストダーツを袖ぐりや衿ぐりに必要分量を分散、そして残ったダーツ分量を裾とアームホールダーツに展開するのが望ましい。今回は袖ぐり・衿ぐり・裾への展開をしなかったためにアームホールダーツが大きくなりすぎたものもあった。
- ・前後身頃のダーツを展開した後、袖ぐり線を引き直しする際、不自然な袖ぐり線が原因で袖付け不良を起こして減点されたものもあった。袖ぐり線を原型よりもゆるいカーブ線で引き直した場合、胸幅が広がる傾向がある。また、後ろ袖ぐりは、原型と同じ幅あるいは削り加減で引き直す傾向があるため、胸幅に比べて背幅が狭くなっているものが見られた。

<衿>

- ・衿は衿腰の低いシャツカラーであるが、衿付け線は自然なカーブになるように修正する。

<袖>

- ・袖の製図にはさまざまな方法があるが、身頃の袖ぐりに対して適当な袖山の高さを決め、基本の袖を描き、その袖の袖山を基点に袖口を切り開きパフスリーブにする。カフスは上腕回り寸法を参考に明きを作らなくてもよい寸法にする。展開した袖山・袖口は修正する。
- ・ギャザーが入るデザインはギャザー止まりの合い印、ギャザー配分の合い印が必要である。

2. 提出用ファーストパターン

- ・ファーストパターンは、基本的なパターンにおいては、必要な記号などを記入することで確実に点数をとれるようになったと思われる。
- ・ファーストパターンは規定寸法の範囲内であり、課題のデザイン画のバランスを読み、形よく構成されていること。全体としてのバランスと部分的な形状が模範解答に近く、縫い目線の形状が適切であることが求められる。また、鉛筆の線が一定した太さと濃さで描かれていることも重要である。
- ・ファーストパターンを作成する際にはトレーシングペーパーなどで脇線・肩線などを突き合せた状態で、袖ぐり線・衿ぐり線・裾線、その他の線のつながりを確認し、修正して完成させることが必要である。
- ・課題に設定された着丈などの規定寸法や条件に関する説明を再確認し、要求されている記入事項として、名称・地の目・記号・合い印・ボタン・ステッチなどが記入されていること。最後に衿・袖・カフスなど、必要なパターンが全て揃っていること。最終的な確認を確実に行っていただきたい。
- ・最後に、ファーストパターンは作図パターンを別紙に、別々にトレースして、名称・記号・合い印な

ど、必要な事柄を書き入れたものをいい、ファーストパターンが最終提出パターンになる。
また、作図でパターン作成を行った場合は必ず作図も提出する。